

平成 23 年 5 月 6 日

平成 23 年度久留米大学附設高校同窓会 理事・評議委員会 議事録

1. 日時、場所：平成 23 年 4 月 29 日(金・祝)10:00~12:00

久留米大学御井校舎メディアセンター会議室にて

2. 出席者、冒頭挨拶：長谷川会長(13)、中村副会長(8)一瀬副会長(13)、小田副会長(19)
以下役員 名(欠席者 名は委任状提出)

会長冒頭挨拶：今年もこの会議を開催する春爛漫の季節となった。先般の大地震の影響で特に関東は原発問題も未だ収束しておらず大変な状況下であるが、理事・評議員の皆様には本日ご多忙中にも拘らず、全国よりご参集いただき感謝する。さて同窓会は近時特に東京支部にて活発な議論や作業が行なわれ、かなり組織が構築されてきた。地元九州同様今や大半の卒業生が在住している首都圏には、企業・官庁・法曹界・医者など様々な分野で活躍している同窓生が多い。それらの知的財産を結集すれば、金銭では量れない程の莫大な資産となろう。この価値ある資産を同窓会でぜひ有効に活用できないかと考える。会員の生活面・仕事面において、このネットワークが有効に活用できるようになれば、全国でも類稀な「同窓会共同体」となるであろう。ぜひ具体化したい。現執行部の尽力で従来にも増して自由闊達な同窓会組織が構築できた。この言わば第二幕の新たな同窓会造りを皆さんとともに更に前に進めたいと考える。本日も活発な議論を願いたい。

3. 議題：中村副会長議長のもと以下の議題につき討議された。

①平成 22 年度活動報告と 22 年度決算承認の件：一瀬副会長より報告。拍手多数をもって承認された。尚執行部会議(本部・福岡・東京)については長谷川会長のご厚意により、「はせがわ」のテレビ会議システムを利用しコスト削減。次に承認事項の 22 年決算は、最初に大神監事から報告があり、その後一瀬副会長より説明があった。拍手多数をもって承認された。

②平成 23 年度予算承認の件：一瀬副会長より以下説明あり。拍手多数をもって承認された。
・通信費、会議費の大幅減は本年は総会の開催が無いことによる(2 年に 1 回開催)。
・就職セミナー援助費は近時の規模拡大(九州、関西からの参加者には一部旅費補助)により 10 万円の予算増とした。

・予備費の 50 万円の予算の内 30 万円はホームページ充実のために予算化したもの。

・以下主な質疑応答(抜粋)；

Q. 東京支部主催の就職セミナーに関し、同窓生の学生が北海道から参加した場合も旅費の補助は出るのか→A. 出すつもりである(東京支部内規として、九州の学生には 1 万円、関西は 5000 円の補助を行なっているので、北海道は 1 万円の補助となろう)。今後ホームページにも掲載したい。

Q. 支部総会支援費について、現在対象は何支部あって補助がでる基準は何か。熊本支部が事務局に確認したところ会長と校長先生が出席しないと補助が出ないと聞いたが、そうなのか。→A. 支部は現在 9 支部存在する。支給実績は東京と福岡には 10 万円、他支部は 5 万円を過去支援費として出してきた。原則はあくまで支部活動の支援であり、飲食費の支援

ではないと理解してほしい。日々の活動に対しての支援であるので、支部は本部に支部総会の度にもしくは毎年会計報告を行なってほしい。また会長や校長が参加すれば支援するという基準は無い。

Q. 支部は現在 9 つあるとのことだが、今後も増えてくる可能性がある。本来支部活動は本部に頼らず自立して独立採算とすべしでは。実態は飲食費が主であり、それに対して本部からの支援を受けるという考え方そのものを改めてはどうか。→A. 原則そのとおりであり、実は役員会でも本件は議論有り。支部総会以外の様々な会合も伝統的に存在し、それらとの整合性も考える必要が有ると思っている。ご意見はもっともであり、来年の総会に向け執行部として整備することとしたい。

Q. 同窓会の収支についてだが、現行のやり方(在校生からの収入が主な収入)では、今後も毎年 2 百万円の赤字体質から抜けられない。根本的に考えるべきでは。→A. 同窓会の財政問題は、古くて新しい問題であり本日も今後の課題のところでも議論したい。因みに所謂特別会計である終身会費の納入率は、近時納入状況は良好である。平成 19 年:127 名、平成 20 年:496 名(CD 名簿作成時に住所確認と併せて徴求)、平成 21 年:125 名、平成 22 年:310 名(納入者をホームページに掲載)。各回生の平均納入率が 70%になるよう目指したい。

Q. 校舎建築に対して行なった寄付はもう実行したのか。→A. 総額 1 億円同窓会として寄付をした訳だが、その内訳は募金で 50 百万円、終身会費の取崩しで 50 百万円。終身会費からは来月の国債の満期を待って振込む予定。本日目録の贈呈式(長谷川会長から吉川校長へ)を行なう。

③東日本大震災に対して同窓会としての支援:

・小田副会長より以下報告有り。「東京支部幹部にて、東北地方地区中心に在住同窓生の安否確認を電話、メール等で実施した。結果 93 名の安否が確認できた。20 回生の小川さん(宮城県塩釜高校教諭)の自宅が流されたが、幸い死傷者は無かった。」

・一瀬副会長より以下の提案があり拍手多数で承認された。

「同窓会の組織をあげて支援をすることは難しいと思うが、同窓会内で任意に有志を募り震災孤児に奨学金(大学 4 年間)を支援したい。校歌の 3 番に修羅道の世を救うべくというフレーズがある。附設同窓生は社会の中で生かされて各々が活躍しており、同窓会として社会への恩返しは大事であり、世のため人のため社会貢献を果たすことは大切ではないかと考える。まだ詳細はこれからであるが附設卒業生である小川教諭のアイデアも参考にしながら、金額など中身を決めて行きたいので、賛同される皆さんのご協力をお願いしたい。」また 13 回生の増田さん(東京支部)より以下補足有り。「既に 13 回生は支援金の拠出をすることでまとまっている。21 回生にも同じような動きがあると聞く。小川教諭とも話したが、高校生以下は国の援助があるが、大学生への援助はないとのことなので対象は大学生としたい。学費全額は無理だと思うので、イメージとして学生 1 人に対し月間 10 万円程度の生活費補助を奨学金という形で出せばいいのではと考える(年間 120 万円)。支援する側としては、無理をせずに、あくまで出来る範囲で行ないたいので、一人あたり年間 1 万円の募金を 4 年間(計 4

万円)ということで、考えている。13回生と21回生併せて現在70名くらい賛同者がいるので、いまのファンドとしては70万円であり、まだ支援を1人(年間120万円)行なうのにも50人(50万円)不足である。尚支援は来年からであり、まだ時間的余裕はある。何人の震災孤児の支援が出来るかどうか分らないが、皆様のご協力をお願いしたい。」

④その他:4回生の池辺教昭さんより同窓会への入会希望有り(推薦者:原口俊文さん、4回生)。八女地区の幹部に念のため確認を行うことを以って承認された。

4.報告事項:

①吉川敦校長のご挨拶:校舎建築が震災の影響で材料が不足して遅れている。第一期の竣工が多分ひと月は遅れる見込み。さらに原料費の高騰という問題も今後の工事に影響を与えることが懸念される。戸田建設を始め関係者のご協力により、なんとか課題を解決しながら今後の進捗を見守りたい。

②各支部活動報告(報告は支部長もしくは代理の理事・評議員より):

・東京支部:1月に15年目の開催となった就職セミナーを行った。昨今の厳しい就職戦線を反映し、過去最大規模であった(80名参加、うち学生50名)。今年は女子卒業生の初めての出席や、卒業生の子女の参加も見られOBと学生(九州、関西からも一部参加)の熱のこもった情報交換がなされた。

・福岡支部:久留米支部、有明支部が合併し、新体制となり、役員会を2回実施。今年7月17日(日)に西鉄グランドホテルにて福岡支部総会開催予定、多数の参加者を期待する。

・中四国支部:森山支部長のもと2年に一回総会を開催し、今年の8月に予定している。東京電力原発問題で、地元広島大学(や長崎大学)の放射線専門家などが各方面から招へいされているが、現地の対策本部においては、附設卒業生が複数名活躍しているのも心強い。

・大分支部:大分市と日田市で交互に親睦会を行っている。次回あたりは植木先輩(4回生)の重要文化財のご自宅で開催するのが夢である。

・佐賀支部:昨年8月に盛況に支部総会を開催した。長谷川会長に経済講演を賜り、一瀬副会長にはサロンド附設の状況を説明していただいた。また吉川校長にもご参加いただいた。

・北海道支部:30名(名簿上)在籍。前回は6月に集まった。学生多く出入りが激しい支部であるが、5年に一回は会長と校長先生に参加していただき親睦を図っている。

・熊本支部:熊大・医の学生、卒業生中心に30年ほど親睦を重ねてきたが、昨年念願の支部組織を立ち上げた。現在70名(名簿上)在籍。うち2名は教授である。

・長崎支部:年2回集まっている。長崎と佐世保に同窓生がいるので2年に1回程度は佐世保にての開催を企画している。

・関西支部:友添支部長を中心に、関西地区在住の学生も参加して活動している。

③23年度大学進学状況報告:別添資料参照。

④個人情報について:同窓会の個人情報は、原則同窓会のためだけに使用することを念頭に、注意しながら取り扱っている(福岡支部長 田中弁護士、20回生)。

5.今後の課題

①ホームページの更なる充実:一瀬副会長「同窓会活動の情報発信の基となるホームページの有効活用を常に意識。そのためにも皆様からの活動やその他報告をぜひお願いしたい。いただいた情報は迅速にアップすることを心掛けている。また財政問題にもかかわることが多いが、冒頭会長挨拶でもコメントあったように、様々な業界で活躍中の同窓生の広告をホームページに貼り付けることにより、より具体的な同窓生ネットワークの活用とその広告収入を実現したい。」

②同窓会財政について:一瀬副会長「現在の同窓会の収入は、在校生からの会費でなりたっており、毎年約 200 万円の赤字体質。ことある毎に一般寄付を求めているが、なかなか難しい。他校では卒業生からの会費を取っているところもあるようだが、まずは終身会費の納入率アップとホームページの広告料収入など出来るところからやっていきたい。」

Q.終身会費の意味合いや目的を明確化すべきでは。それが曖昧では集めにくい。→ A.おっしゃるとおりであり、集金の際は、終身会費を払った場合のみ同窓会名簿を配布するというと集めていた。しかし一方で従来よりその本来の目的がよくわからないという意見もあった。ぜひ次回の評議員会で本件につき議論し、できれば規約に盛り込みたいと考える。

③規約改正:現在同窓会の役員である理事について、評議員や支部長との関連でその役割を存在意義含め整理したい。他の例なども参考に検討し、次回の評議員会に付議したい。

6. その他

①提案(中村副会長):会報(2年に1回発行)の費用対効果につきご意見をいただきたい。現在1回あたり、作成費は100万円かかっている。一方でホームページの充実も徐々に進んでいるなかで、その効果は皆さんどう思われるか。→「ホームページの閲覧がしにくい同窓生にとっては貴重な情報。費用があるていどかかっても続けてほしい。」という意見も一部ではあるが有ったので、継続検討。

②報告(小田副会長):思考回廊について;回生毎のメッセージ板(60センチ×60センチ)を1回生から直近の卒業生まで作成し、新校舎の壁面に貼り付けるモニュメント。2012年5月までに回生世話人経由各回生毎の案を決めたい。2012/8にパネル(陶板)作成し2012/11に取り付けるスケジュール。全体の枠組(100万円)は59回生の父兄が卒業記念として作成してくれる。1枚あたり10万円のパネル(陶板)費用は各回生が負担する。

以上

文責:安部(20)